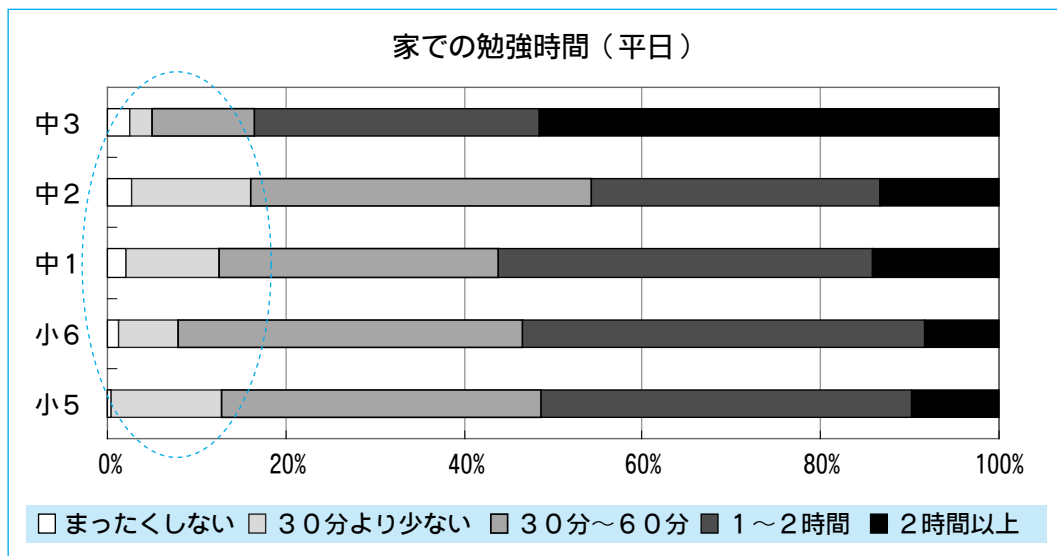


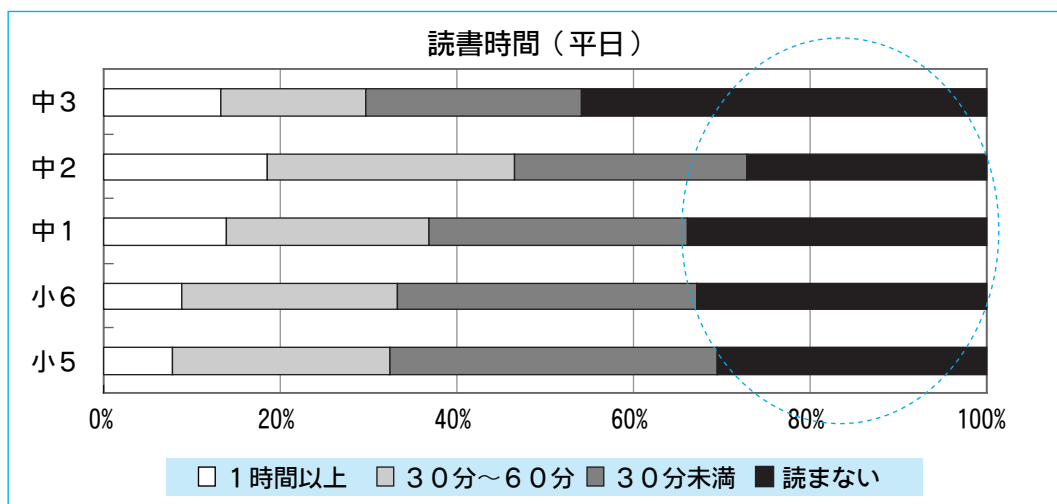
平成18年度 児童・生徒意識調査の結果について

6月号では、本年1月に実施した「さつま町」の児童・生徒の「基礎・基本」定着度調査の結果と分析、そして対策等をお知らせしました。

今回は、上記調査と併行して行った「意識調査」の結果等についてお知らせします。



家庭での学習時間は、昨年度よりも多くなっていますが、30分以下という児童生徒がまだ見られます。特に、中学1、2年生に多く、高校受験前に慌てて取り組む傾向が見られます。小学校高学年から、宿題が出されなくても、自分で考えて学習する習慣を身に付けることが大切ではないでしょうか。



児童生徒の読書時間は、全体的には昨年と同程度です。ただ、小学生でまったく読まないという回答が30%を超えているのが心配です。学力の国際調査等で、読解力の不足が指摘されています。その根幹となる読書は、学力だけでなく、豊かな心の育成のためにも重要です。

さつま町の児童生徒の学力は年々向上しています。全小中学校では「基礎学力の向上」を最重点課題として『60・90（ロクマル・キュウマル）運動』（小学生で60分、中学生で90分の家庭学習）に取り組んでいます。ご家庭での見届けにご協力ください。

また、学力向上には心身の健康も大切です。『早寝・早起き・朝ごはん』はその基本となるものです。家族全員での取り組みをお願いします。

